

予約を分散し 待ち時間短縮

都城市祇原町の宮田眼科病院（宮田和典院長）が、独自の予約システムを導入し、外来患者の待ち時間を平均で約一時間短縮している。医師ごとの診察可能患者数などこれまで踏み込めなかった領域についても調査・分析を重ねて数値化を實現。検査・診察などの予約・変更をコンピュータで管理している。

同病院は年間十二万人が来、「業務改革IT委員会」を設け、手術数は三千件に達す。昨年七月に「M-Manager」

都城市の宮田眼科

る。待ち時間改善などを目的に二〇〇一年九月、院内に稼働させた。

医師ごとの診察可能な患者数、手術難度、患者一人ひとりにかかる診察、検査時間や各施設の利用状況などから待ち時間が少なくなるように予約を分散させた。



宮田和典院長

管理システムを開発



独自システム導入で外来患者の待ち時間を大幅に短縮した宮田眼科病院

昨年七月時点で約70%だった予約率は、待ち時間短縮の（ ）は「待ち時間の短縮は、メリットを実感した患者の口から出てくる。仕事のある身には本当にうれし（ ）ミなどによって現在90%に近いし、助かる」と話している。四月からは診察した。順待ち時間などが把握できる。宮田院長は「待ち時間に関する大型ディスプレイを待合室にする苦情が十分の一に減った。病院を取り巻く状況は厳格になっていくか」「呼ばれたかしいが、システム導入の効果は呼ばれないか」「カルテは来によって受診率低下などの打っているか」などの情報を一目で把握できる。システムも大きいと語っている。